

中学生は勉強方法の転換・確立期

中学校では、小学校の勉強法では対応しきれない部分が出始め、自分なりの暗記法や、考え方を模索することが必要です。同時に小学校の頃に培った考え方・知識を活用していく必要もあります。これらのことを自分なりに試行錯誤し、ときには誰かに見てもらいつつ、専門的な内容が扱われる「高校」に向けて、自分の学び方を確立していく時期です。

身につけるべき3つ

① 分からないものはすぐに調べる

わからないことがあったら、そのままにしないで、学校や塾の先生をたくさん活用したり、辞書を引いたりして調べるクセをつけましょう。そのままにした所から嫌いな教科が生まれます。

そして、高校以降は、その調べるためのツールをどれだけ持っているかで、教科の得意・不得意が分かります。インターネット・百科事典・地図など。まずは、自分の好きなことで構わないので、色々なツールの使い方に慣れましょう。そして、場合によってそのツールを使い分けられるようになると、さらに良いです。

② 声に出すこと

「復唱」という勉強法は、日本に古くからある非常に効果的な学習法です。恥ずかしかがってあまり声を出さない子もよくいますが、是非やってみましょう。大きな声を出すこと自体がストレス発散にもなって気持ちがいいですし。

これは国語や英語に限らず、社会でも、理科でも、その内容を人に説明するつもりで、声に出してみると、自分はどこが分かっている、どこが分かっていないのかという確認もできて、さらに効果的です。

③ 理由を考えること

どの科目のどんな内容にも、理由があります。教科書に書いてあるから…だけではなく、色々な物事に対して「何で?」「どうやったら確認できるんだろう?」と疑いを持ちつつ、理由を考えていく習慣をつけましょう。もちろん、一人で考えるだけではなく、友達や先生と話しながら、一緒に考えるのも効果的です。

勉強法：英語（中学校）

「他の国の言葉をゼロから覚えるという「意識」を大切に」

① 「書く」・「読む」を大切に

書いたり、読んだりを繰り返すことが必要な教科です。でも、ただ読み書きすれば良いというわけではなく、色々考えながら、楽しく進める工夫を。

単語… 特に、一年生のうちは、新しく覚えなければならない単語は10回くらい書くこと。英語のスペルのつづり方に慣れよう。

読む… 会話文なら、ご両親や友達と役を決めて、声に出して読んでみるのが効果的です。外国語習得の一番の近道は何度も音読すること。自分なりに、感情を込めて読んでみましょう。

書く… 自分の書ける文法を使って、とにかく日記を書いてみることです。もし、それを誰かに見てもらえれば、さらに良いです。友達でも、先生でも。
注意するのは、「一般動詞と Be 動詞の使い分け」、「時制（現在・過去・未来）」の2つです。文法的には中学2年までの内容で、日常会話や日記には十分であるといわれています。 Let's Try !

② 文法事項はやり方を決める

- ・ 文法は学校の先生によって、教え方が大きく異なります。そして、子どもにもひとりひとりにあった学び方があるので、色々試しつつ、自分なりの方法を見つけることが大切です。それがなかなか見つからないときは、学校の先生や個別指導の先生に相談してみるのも一つの方法です。

基本的には、英語は、色々な参考書等には頼らず、学校の教科書に出てくる文章について上に書いてあることを丁寧に進めていけば十分です。あと、辞書は必携です。

勉強法：国語（中学校）

文章の「最も言いたいこと」を見つける「練習」

- ① 漢字… 漢字は、反復練習が基本。でも、ただ書くだけではなく、書いたものを目でしっかりと見て、声に出して、五感をフルに使って取り組みましょう。
- ② 長文… 説明文は、「要旨」「段落（文章）構造」「指示語」「接続語」をよく理解して文章が読むこと。「苦手だなあ」と思ったら、小学生の文章問題（問題集 1 冊）で、上の 4 つの力を養ってみるといいと思います。

※ ただし、つねにこの 4 つを意識しながら、読んだり解いたりしないと意味がないので注意しましょう。そして、分からない言葉があったときには、すぐ辞書を引く癖をつけること。

- ③ 古文… 学校ごとのやり方によって異なりますが、とにかく一度は音読すること。黙読も 2 回くらいすると効果的…←古文独特の言い回しに慣れる。
そして、現代語訳と一文一文、見比べながら読む。もしくは対比させてノートに書く（学校のノートを写すのではなく自分でやること）。

※ 文法事項にまで言及している学校であれば「勉強法：高校編」を参照。そうでなければ、現代語と異なる助詞（「に」など）や、教科書に出てきた重要語句などを学校の指定した範囲で覚えればよい。

勉強法：社会科（中学校）

- ① 映画やマンガでもいいので、歴史の流れを大まかにとらえておくこと。
- ② 日本地図（都道府県）と世界地図（大まかな地域名と有名な国）は覚えておきましょう。さらに、各都道府県や国の特徴が、言葉にできるとさらに良いです。

その上で、テスト前には…

- (1) 穴あきワークの同じ部分を 5 枚くらいコピーして、やる。さらに声に何度か出して言う…<キーワードを覚える>
※ 分からないキーワードはすぐに百科事典で調べること。
- (2) 教科書の該当範囲の要約を書いてみる…
<どんな時代で何が起こったのか・どんな流れかを大まかに把握すること>

勉強法：数学（中学校）

- ① 公式は、何でそれで答えが求まるのかを考えてみる
- ② 教科書の例題の解説を、声に出して説明してみる

中学校の数学は、小学校までの具体的な内容から一転して、抽象的な内容（方程式・関数など）が多く扱われ、内容が目に見えないことが多く、何をやっているのか見失いやすくなるのが特徴です。

教科書の内容の一つ一つに対し、この内容により何ができるようになるのか、今までの数学のどの部分に関連しているのかということを中心に考え、調べながら進めていく必要があります。決して、目先の問題を解くことに気を取られすぎて、公式の丸暗記だけで乗り越えようとしないこと。公式が出てきたときには、「何でそれで答えが求まるのか」「求めた値は何を意味しているのか」をしっかりと考えてみてください。

勉強法としては、教科書の例題（解説が詳しい問題集でも可）の問題と解説を読んで、それをほかの人に説明するように、声に出してみることをお勧めします。学校や塾の先生などに聞いてもらうとより効果的ですが、一人でも十分効果があります。

勉強法：理科（中学校）

- ① 資料集などを使って、教科書とイメージを連動させる
- ② 教科書の内容を、自分の言葉で語れるようにする

小学校までの「実践」「観察」が多い理科に比べ、中学校では教科書の上だけで扱われる内容が増え、数学と同じく、自分がやっていることを見失いがちです。よく、理科は暗記科目だという先生がいますが、計算こそ少ないものの、考え方は数学と全く同じですので、教科書の内容を、他の人に語れるようになって初めて、その内容が身についたといえるものです。

勉強法としては、教科書の内容を、資料集や事典、インターネット等の目で見える資料で補いつつ、「日常生活」に結び付けていくことが重要です。数学同様、声を出して語ってみることが第一です。もちろん、科学館などの施設を活用するのも、とても効果的です。